

平成30年度第2回 泉区地域福祉保健推進協議会 会議録

日 時 平成31年1月23日（火）14時00分～15時30分

会 場 泉区役所4階4AB会議室

出 席 48名

内 容

開会あいさつ

【議題】

1 泉区内地域包括支援センターの新規設置及び担当地域について(資料1)

福祉保健課より、平成31年12月開所予定の「横浜市岡津地域ケアプラザ」について、概要・所在地・地域包括支援センターの担当圏域と、開所後の区内地域包括支援センター圏域の変更について説明。

2 平成31年度横浜市介護予防交流拠点整備事業(補助金)の交付団体の再募集について(資料2)

高齢・障害支援課より、事業説明および募集の周知。

3 泉区定住・転入促進の取組について(資料3)

定住・転入促進プロジェクト推進担当より、リーフレットの紹介と公式Instagram(#住むなら泉区)について説明。

4 平成30年度第3期泉区地域福祉保健計画推進イベントについて(資料4)

福祉保健課より、区民ホールイベント(2/26-28開催)と活動発表会(3/7開催)のご案内と、地域福祉保健計画の紹介パネルについての作成依頼と展示について説明。

5 泉区地域福祉保健計画について

(1) 第3期中間振り返りについて(資料5)

- ・福祉保健課より、中間振り返りの概要について説明。
 - ・質問(港委員): 区計画の「障害者支援」の掲載する内容とは何か。
- 事務局より、掲載する内容については現在調整中。例えば軽スポーツ大会など区独自の取組をとりあげる予定。これまでできてきたことを認め合って、継続していくために、成功事例を掲載する。

(2) 地域福祉保健計画の推進について～第4期に向けて～(村井委員)

村井委員より、説明。

まずは、地域福祉保健計画を推進するうえで、大事な4つのポイントがある。

- ・1つ目は、住民参加。多くの住民の皆さんに参加いただき、その声を計画に反映させる。計画の策定、推進、評価の時に、住民の皆さんの声を組み込む。4期計画の策定に向けても、皆さんに御協力いただきながら進めていきたい。認知度は重要で、知らないものには共感できない。知っているからこそ期待される、声があがるので、きちんと周知していくことが大事。
- ・2つ目は、共生社会。子育てに力を入れている泉区では、多世代交流はミッションである。出会いと支え合いの価値を大事にしながら、地区別計画を進めていく。
- ・3つ目は、男女共同参画。

- ・4つ目は、福祉文化の創造。これを創造することで、自然と文化が形成されていく。
- ・つながりは最初からは作れない。色々なことをやって、結果的につながりができる。
- ・互助の仕組みをデザインし、地域をもう一度盛り上げていく。お互いさまの社会をどう作っていくか。ニーズのある方をサービスにどう迅速につなげていくか。ケアプラザの認知度は重要。
- ・地域包括ケアシステムや「我が事・丸ごと」の地域共生社会を目指して、2040年に本格的な人口減少が始まる中、全年齢対象の地域包括支援センターで先進的な取組をどれだけ育ていけるか。
- ・連携とは、具体的にやること。3つの柱がある。

- ① 明確な目的・目標を共有できているか。
- ② 相互の理解と役割分担。頼み頼める関係を築けるか。相互の活動を理解することから。
- ③ 情報共有。個人情報保護法は個人の権利と利益を保護するためにあり、活用していくことが定められている。

保健・医療・教育とも連携し、地域福祉に位置付けて生活困窮者支援にも取り組んでいく。

- ・4期計画は3期を踏襲し、3期計画の8つのまちの姿を柱とする。中間振り返りまとめリーフレットで整理したものを4期計画へつなげる。推進、策定では専門部会を設けて、構造的に計画をデザインできるとよい。
- ・担い手育成については、ちょっとおせっかいに周りの人たちを巻き込んで、引っ張っていくこと。豊かな、かけがえのない経験をすることで、活動の担い手となっていく。弱みを補強するのではなく、強みをいかに伸ばせるかが重要。

6 意見交換・情報共有

- ・泉消防署救急担当の小山委員より、火災と救急について報告。
火災は減少傾向だが、救急が年々増加している。今年度は泉区で約8,000件、そのうち約4割が軽症で緊急性なし。救急車も限られた台数しかないので、重症者への対応に支障をきたす。
泉区では、救急に関する動画を作成し、2月中旬にHPにて公開する予定。
- ・救急に関する相談窓口として、救急相談センターがある(#7119)。ぜひご活用ください。

7 その他

- ・感染症情報について、市内にインフルエンザ流行警報が発令していますので、ご注意ください。

閉会あいさつ